（十四日夕刊）

磐城新聞

休刊日 大祭日第一第三日曜日
定價 一部參錢 一ケ月五十錢 郵稅拾錢
廣告料（雜報欄一行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所 磐城新聞社 電話五六番

溫情の缺陷が不良兒をつくる

統計が語る冷い家庭

不良少年問題は教育の問題のみならず今日では社會問題として識者をして憂慮せしめつゝある殊に各種の救化團体や個人的事業としても之れが救濟と研究對策は日に日に眞面目にされるやうになつて來た。今斯うした研究家の一人として有名な吉田敬盛氏が最近氏自ら手にかけた不良兒二百六十四人に就ての調査研究を見ると、頗る興味ある不良兒出現の原因が明白に指示せられてある、同氏は不良少年として何等かの惡行爲をなす迄即ち初犯迄の調査研究をなして左の如く發表した

◇兩親の中一方が生さぬ仲　四三人
△實父と繼母　二三人
△實母と繼父　二〇人
◇片親のみの者　七八人
△父親のみ　四一人
△母親のみ　三七人
◇養父母又は親族に育てられた者　五七人
◇實父母に養てられた者　八九人

右に依ると全數の三分の二は全く兩親なきか又は何れかの親が缺けてゐる不完全なる家庭に育つた子供のみで、換言すればその家の貧賤も、家庭の如何に係らず肉親溫情の缺陷した冷たい家庭に人となつた子供が不良兒となる傾向を最も多分に持つてゐると云ふ事を示してゐる、之は單に此表のみならず既に廣く不良兒研究家の間に定評あるが、更に氏は實母のない家庭に育つに子供に無斷家出と云ふ不良兒の常套手段が最も多く現れて數に於て百五十件もあると云ふ事を發表されてゐる。是等は子を持つ親として殊に實父繼父の家庭では一層の注意をしなければならぬ事を如實に物語つてゐる。次に之等の少年が犯罪者として不良兒として特別の扱ひを受けるに到つたまでの犯罪調査の結果を個性的に區分した表を掲げると

△先天的不良性　一三人
△偶發性の者　五七人
△後天的不良性　一九二人

これに依つて見ると、先天的の者は極めて少く、後天的の習癖や又は家庭に環境から悲惨なる社會的落伍者となつた者が最も多數を占めてゐる點などから見ても不良兒の出現は一つは家庭に懸つてゐると云ふ事を一層痛切に感せしむるものである、春は不良兒の出る時として夫々方面から注目されてゐるのであるが、特に家庭の人々が最も此の方面に努力して未然にふせぐ方法を講ずべきである。

明日の吉凶　舊暦四月十五日　新暦五月十五日

▲一白　油斷の生じ易き日氣を緊めて咎なきを期せ▲二黑　樂の道を選みても知らず苦に陥る日▲三碧　退嬰せず進んで効果あり但し[illegible]なれ▲四綠　八方より誘惑の手の伸び來る日動くは凶なり▲五黃　自儘の[illegible]を生ずる時は物事失敗に歸すべし▲六白　口故に大事を敗る事あり默するが安全第一▲七赤　浮薄の潮流に捲き込まれぬ樣注意すべき日▲八白　高きに居て足元の崩れを生じ易し内外注意▲九紫　樂観は大敵勉むれば大抵の難事も達すべし

平町田町
高久病院
電話五一三番

講談　血で血を洗ふ　(35)

高橋掬太郎創作
布施や八郎揮畫

俄か評定

早間重太夫と昌康の計略は信長攻め來るの流言で人心に恐怖を起させ奧方から第一に降服を進めやうといふ甘い考へたつたが奧方が少しも狼狽やすに主君の指揮を聞いて善後策を定めやうと云つたので些か勝手がちがつた。

成昌の許へ此の由を傳へたなら決して降服するなどと云ふ答がない。且つ虚構の化けの皮がはげてしまふ。しかし軍馬を立てない譯に行かない。重太夫は一寸困つたが直ぐ一案を考へて腹心の室部左内を使者に立てて成昌の陣中へ走らせた

室部は重太夫に云はれた通り途中から引返して來て了つた。

「大變でございます」

室部は息も絶る／＼に驅け戻つて來た。

「何事ぢや」

昌康は態と奧方や深雪の方が列座の席へ室部を呼んだのであつた。

「信長の軍勢は一萬柴田勝家を大將に早くも押し寄せまして途中を斷ちましてございます死。を決して敵陣を潜り拔け主君に此の次第を申上げやうかとも存じましたがそれより城を守る方が大事と存じまして引つ返してまゐりました」

「ナニ、いよ／＼信長が押寄せ來たりと云ふか、そは一大事じや姉上如何致しませうや？」

昌康は氣も落着かぬやうに見せて秀の方に云つた

「成程それは一刻の猶豫もならぬ一大事早う總登城を命じて評定をなされるがよろしいと存じます」

奧方も落着いてたれなくなつた。留守居の諸士の意見を問ふて敵を防ぐ軍略を定めやうと云ふのであつた。しかし城を枕に討死しても降服しやうなどといふ考へは少しも奧方にはなかつた

「然らば早速に總登城を命じませう」と昌康は留守居の諸士に廻狀て總登城を命じた。城下の空氣は嵐の前の雪のやうに險惡と不安に閉ぢ込められた。

「いよ／＼信長が攻め寄せたのぢや」

町人や百姓は口々に叫びながら避難の準備に狼狽した。

やがて時ならぬ總登城の商令に留守居の諸士は胸をおどらせながら我れ先きにと登城した。がその中にただ一人神部淸工門が登城しなかつた。登城しないのでなくて總登城の廻狀のうちに神部の名だけを洩したのであつた。

忠義一圖の勇士神部淸左エ門が評定に加つては都合が惡い。と云ふので態と彼の名だけを落しておいたのであつた。

「諸士打揃つて登城仕りましてございます」

と奧方に申上げた

「たゞでは直ぐ參りませう」と奧方は直ちに表書院の評定の間へ出た。

正面に昌康と奧方の席を竝べその左右に家老の席それに續いて家中の面々が居流れたが平常とちがつて家中の三分の二は出征してゐるので百疊の間が應すぎる程の寂しさが感せられた。

昌康や早間重太夫は早や著席してゐた。けれど上席家老の神部淸左エ門の姿が見えない奧方は早くもそれに氣がついて席につくと直ぐ問ふた。

「神部殿の姿が見えぬやうでありますがまだ出仕せぬのでござりまするか？」

はつ神部殿は病中に付き廻狀はつかはしましたが出仕は出來ぬ樣子にございまする」と重太夫が答へた

「左樣でありますか……」と云つたが奧方はがつかり力を落した。

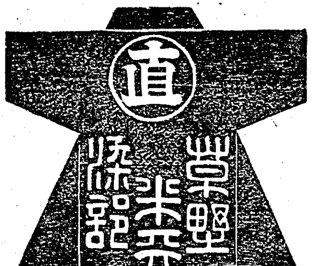
奧方が杖とも柱とも信賴するのは神部淸左エ門一人であつた

仙臺高等工業學校長試驗證明
鐵道省御指定
福島縣廳
世界的
萬年筆

不思議な滋强靈液
養命酒
肺結核、肺炎カタル、ロクマク、性的不能、神經衰弱、不眠性、貧血症、婦人病等の特異靈劑なり、其偉効に實驗者は驚く賣行きの增大するを與て其眞價を立證せらる、惱み苦しむる人々の一大福音なり
此際是非御試用を切に勸む
定價 一、五〇　二、〇〇
代理店 山野邊藥局 平町五丁目角

外科、耳鼻咽喉科
內科、泌尿器科
X光線科
外科 赤心堂病院
平町宇田町 電話四七五

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候



金牌一等賞數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

嶄新輕快ナ
小供麥帽
麥一文字帽
流行の粋
婦人洋傘
男子用絹張傘
着心地ヨク實用的ナ
富士絹ワイシャツ
ゼハー　プリンー各種
に
鶴屋洋品店
平町四丁目 電話百四十番

世界的日魯漁業會社が大量製産の結果はかくの如き安き鑵詰ありや
優良、美味、便利
氷山印鮭鑵詰
特價 金貳拾參錢
平町二丁目
西村屋藥局 電話三番

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士 青沼淡夫
電話四〇三番

三百年の古い歷史と他の模擬の出來ない獨特の芳香と色澤を有つ
ヒゲタ醬油
釀造元 銚子醬油株式會社
平町田町
特約店 廣瀨支店
電話五四番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に二千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にて貸しいたします
御希望の方は電話なり蔵けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

非人道極まる坑夫組合の幹部
飜然坑夫組合を脫退し去つた
室井太一の實直な聲明書

入山炭礦先山室井太一は日本鑛夫組合入山支部の設立と共に加入し同組合第四坑調査部員として第一線に立つてゐたが悟る所あり別項の如く斷然坑夫組合を脫退し今十四日左の如き聲明書を發表した

聲明書（第一回）

私は只今まで、日本坑夫組合と云ふものの主義綱領にのみ誘はれ組合員として各種の運動に携はつて來たのである、然るに時を經、日を重ねるに伴れ組合の內情が瞭然として判明するや、寧ろ戰慄を感ずるに至つたのである、其の內部の狀況は彼等中央幹部と云ひ、或は支部長と云ふものの何等價値なく、只資本家及び勞働者の仲間に介在して甘い汁を吸ふ一のブローカーに過ぎないのである、それは以前入山炭礦爭議に於ける結末の當時加藤、關家、高橋等は會社側より金一封、即ち五千圓を收受した、その當時の契約に於て加藤、關家、高橋は再び當所に爭議を起さぬ旨を本縣警察部中山高等課長立會の席上に於て言明したのである、如斯は眞に勞働運動に携るものの言動として受け入れる事は出來得ない事である、

現在の爭議の原因たる扇風機問題は何等の理由なき無價値のものであると云ふ事は鑛山監督局の發表によつて明かである、然るに一部首讖られ者の捨鉢的な策動と田村の自暴自棄なる行動により不純なる今回の爭議が醸されたのである、彼等は即ち『戰へば必ず勝つ』の好餌を振りまわし而してその煽動によつて右し左される友人諸君は實に氣の毒である、戰やうやく組合側不利にして意氣振はざる折柄、第五坑々內の瓦斯爆發の椿事突發し我友十六名の犧牲者を出すの不幸に遭遇したのである、此の時坑內より慘膽たる我が友の屍が搬出されるとき坑夫組合の幹部以下は聲を限りに萬歲を連呼したのである之れまでも何等價値なき組合として心密かに嫌惡の氣に燃いてゐた折柄計らずも此の非人道的事實を目擊するに當つて私は益々果然たらざるを得なかつたのであります、

彼れ等は我が友の死を悼まず、然かも萬歲を連呼して此の悼ましき死を快とする事實は人道を無視し、道德の觀念なき禽鳥獸と些さかも撰ぶ所なきに呆れ私は決然として坑夫組合より脫退を聲明したのである、然して近隣の友に對し理を說き人道を語り飜然我々の進むべき道を諭せしに誰人かの注進により坑夫組合の小爺秀則外數名は去る八日午後一時私を第四坑支部に呼び出し暴行の限りを盡したのである、爲めに私は全治三週間を要する傷害を受けるに至つたので、斷然彼れ等暴徒を告訴し法の力によつて糾彈するの擧に出でたのである、

此の價値なき爭議によりやがては笈を負ひ家族を連れて此の山を退かねばならぬ我が友の慘めな姿並びに現在爭議の犧牲者として平刑務所に囚の身となつてゐる我が友にはパン一片の差入れさいもなく、空腹を抱いて泣きわめく家族達ちの悲慘の樣おれや是れやを想ふとき私は心から彼れ等幹部と云ふものの橫暴なる振舞ひを憎むものである、

我が友諸君、私は本日斷然脫會を宣しこの聲明書を公表して諸君の反省を促したいと思ふのであります。

元坑夫組合入山第四坑
調査部員　室井太一

冷酷な組合幹部に繰られ
憐れな爭議團員
脫退者室井太一の口から
暴露された醜さ內容

湯本町入山炭礦の爭議事件は爭議團の內輪割れから戰氣とみに衰ろい會社側の强硬な態度に對し今日では如何にして爭議を繼續するやに焦慮してゐる狀態にあるが同礦先山夫にして坑夫組合に加入し第四坑調査部員たりし室井太一外十五名は組合幹部の行爲にあきたらず決然脫退を聲明するに至つたが之れより先き入山採炭會社に此の赤誠を陳述すべく吉田事務部長を訪問したるに吉田氏不在の爲め警務係員今村、門井、大谷の三氏が應接した左はその席上室井太一が述開の大要である

（本文は入山採炭會社警務係員今村氏の言責で若し異存あるものは同氏が何時にても責任を以て答へる筈である）

脫退者室井太一は赤誠溢れる面持ちを以て『坑夫組合に加名さいすれば收入も多くなり氣樂な生活が出來ると云ふので加名して見るとその**實際內容**は話にならぬ醜さである、私は今更らになつて組合幹部の喰物とされてゐた愚を悟りました、目下組合支部には白米一俵と麥九俵があります、之れては到底爭議團員を養ふ事が出來まいと皆んなが心配し出すや、本部から金二千圓が來るとの話でしたが、それも噓で三四日前金四百圓が本部から來ましたが其の金は當然爭議團員を養ふ金に充當するのだと思つてゐると、支部長田村と關家博とかその四百圓の**金の分け**前勘定から醜い爭ひとなり、それを傍で見てゐた私は云へ知れぬ淋しさを感じたのであります會社は本心に目さめ心の底から悔え改め爾後職務に奮勵する者は一切を許しお使ひ下さるとの事を聞きました、過去私は爭議に參加し會社の營業を妨害し善良な坑夫同志を誤らしめた事は會社に對し何とも申譯けありませんが、今後は必ず契つて良心に立ち返り**專心業務**に復したいと存じますから何卒御許し下さる樣」にと眞心を以て懇願し更らに今村警務係員より爭議は何れが勝つと思ふかの問ひに答へ『坑夫組合の幹部も爭議團員も此の爭議は例底勝でないものの覺悟はしてゐる模樣である、どうせ結局は捨鉢的に會社でも襲擊するより外ないと思ひますが幹部は無智な我々を使嗾して暴行をなさしめ、そのままさつさと東京の本部に引き上げて後を顧みない位の事は、今日まで組合幹部の**不誠意**に照らしやり兼ねない事と思ひます、然し最早冷酷極まる組合幹部に愛憎を盡かしてゐるから前非を悔い改める事も遠くはあるまいと思ふ私は同志十數名を集め決心の上會社に參りましたのです、どうか御諒察をお願いたします云々と熱心に悔いを說く所あつたので會社は過去を責めず釋然として從業せしめる事となつた

事相の復雜に鑑み
平署に高等警部
寬嚴宜しきを失はぬ樣
爭議取締の苦心

常磐炭界の覇を以て稱せられてゐる磐炭王國をはじめ入山、古河、三井、王城、小田六炭礦に亘つて日本坑夫組合の支部が設けられ爭議を以てし今や縣警察部の內部には縣下警察事務の六割を占むる所轄平警察署に專任高等警部の**常置**をさへ提唱される實情に在り隨つてこれが取締警戒の萬全を期すべく縣警察の主腦は擧げて之を石城地方に集中する場合少からざる有樣で之がため將來全縣下一圓に亘り普遍的に警察機能を發揮するに就て往々その敏活を期し得られぬ場合あるべきを憂慮されてゐるが此種の取締警戒に關する其筋の方針は爭議解決の結果如何が繫つて土地柄直に或る程度の小作爭議若しくは漁夫主間の爭議などを**誘發馴致**する素因をなす場合あるのでその間一層の愼重を要し而も爭議團の言動に對しては苟くも苛察に失する如き高壓的態度を以て臨むを避くる等その寬嚴宜しきを得たる取締に就ては人知れぬ苦痛が存するものと觀られてゐる

山野に青物を採り
一日僅か一圓の所得
湯の岳ふもとの村民が
町へ出るまで

石城郡入遠野村折松、白水東山の二部落は人家の割合に耕地少く生業に乏しき爲め、春秋二回山野に自生する靑物果實等を採取して販賣するを副業とする者が多いが毎朝午前二時頃**提燈の**明りをたよりに出發し、沓猶暗き鬱蒼たる森林帶の山又山を橫ぎり二千尺の高峰三体明神山の頂上より、箕輪村の高野に出て、路傍家々の朝寢の夢を驚かし、約四里を隔てた內鄕村磐城炭礦に至り軒毎に賣り歩いて居る。春は芹、三ツ葉、椎茸、ワラビ、ウド、フキより秋は主として栗を毎日老若男女少きは十數名より多きは五十餘名各八貫匁內外を**背籠に**負ひ列を爲して山を下り來る所は一守見事である。往復八里の山道斯くて得たる一日の賣り上げ高一人一圓數十錢、採取する一日を合算平均すれば一日の所得僅一圓に充たないけれど、秋は相當の金額に上るらしく然も三部落の年額二千餘圓に達すると

平四倉軌道
認可の申請中

四倉町栗原欣次郎戶田兵藏平町中野甲藏氏等は平四倉町の旅客貨物の輸送を圓滑ならしむる目的にて資金十八萬圓の軌道敷設を爲さんと企劃し同區間の測量を行ひ此程其認可申請の手續きに及んだが全長は六哩五分に達すると

上水道の恩惠で
傳染病は減少
以前の三分の一に下る
平町の比較統計

平町は數年前迄傳染病患者を多く發生せしむることに於て縣下屈指の町とされ腸チブスのみにて大正九年迄は毎年百名以上をだしてゐたが同十年には七十五、十一年五十、十二年三十三、十三年二十九、十四年二十三と言ふ逐年著しき激減を示し傳染病費も輕減され公衆衛生の方面からも非常の好績を收め得るに至つたが最も喜ぶべき此の現象を見るに至つた大なる原因は大正九年から水道が敷設され用水衛生が完全に行はれる事となつた結果で昨年の如き氣候不順にして多數の患者を續出せねばならぬ事情にあつても腸チブス三十四、疫痢四、腦脊髓膜炎一、赤痢二、猖紅熱七にてチブスの如きは水道敷設前に比較すると約三分一に減つてる

白米四升の喧嘩
隣り同志が睨み合つて
遂ひに告訴沙汰

好間村大字上好間字山上居住菓子行商人山本タケ(三八)は久しい前隣家の小川ハル(三三)に米四升を貸したが何時になつても返濟をしないので催促に行つた些細の事から兩人は犬猿も只ならぬ間柄となり寄ると觸ると口穢く罵り合ひ果ては摑合ひをする事も珍らしくないので近所の人人も呆れてゐたが去る七日午後六時頃ハルの夫小川久治(四七)が內鄕村高坂坑からの歸途山路で自分の妻ハルと仲惡るな前記タケと出會ひがしら『たれの嬶は貴樣のためにいぢめられてゐるから今日は俺が仇を取つてやる』とばかりもつてゐた洋傘でタケを滅太切に毆打したのでタケは平署に傷害の告訴を提起したので平署司法主任片寄警部補は十三日久治、ハル及タケの三人を本署に召喚し隣り同志で仲惡くとも困るだらうから仲好くしたらどうだと粹な御裁かあつたがハル、タケの兩人は係官の前でまた/\口論を始め摑み合ひの修羅場を現出し久治も妻ハル助太刀しタケを毆打する等の大騷ぎを演じた

組合最後の肚を割り
仲介者の呼出策
結局は自滅の外ない
入山の坑夫組合

入山炭礦爭議は爭議團を統制する日本坑夫組合幹部の橫暴と此れに不滿を抱く團員は日に日に脫体者續出の狀態にあり爲めに坑夫組合は全くの窮狀に陷り此のまま爭議を繼續せんとすれば過般尾去澤爭議の如き終末を見るは明かの事にして坑夫組合は此處に全く**壞滅の外**なく入山爭議を多少なりとも有利な解決を見ざれば再び當地方は勿論全國的にも立つ能ざるに至るは必然の理で此の重大危機にある日本坑夫組合は遂に友明各團体の應援を求める事に決定既報の如く昨十三日午後五時から平町南町キリスト教會に入山爭議の對策協議を開始したが此の結果爭議は日本坑夫組合の統制權を日本勞働組合同盟の**手に移し**その統率に依つて爭議を繼續する事と決定した而して同盟の手に移つて爭議はやゝ新鮮味を帶びるものと觀られてゐるが內容は依然として坑夫組合の統制にあるものの如く單に同盟の名に依つて東京某々方面に爭議調定の便に使せんとするものらしく爭議の敗戰に依つては重大な危機あるものと觀られてゐる日本坑夫組合の窮餘の一策であるらしいが此のからくりは早やくも會社の知る所となつたものが爭議團が**聲を大に**する常磐炭界一圓にゼネラル爭議を起すとの强宣傳に依つて天降式の調定者現るゝも絕對調定には應せざる覺悟を定めたものの如くである

兎三羽の罪
餘罪を自白す

飯野村大字上高久字片岡農喜太郞長男大和田美光(二三)は去る一月中同村白土忠次方の小屋から兎三羽を竊取し平町月見町渡邊芳太郞に金三圓六拾錢で賣却遊興費に當てた事此の程平署に探知逮捕の上嚴重取調を受けたが更らに同人が自白した所によると昨秋頃から自宅土藏內から籾三石五斗を前後數回に亘つて竊取し同村內荷馬車挽業鈴木久治並に同村永山光重に情を打ち開けて賣却し各れも遊興に費消して居たもので平署では前記久治を贓物運搬光重を贓物故買として目下取調中である

明日休刊

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

急告
一女中さん（十六七歲以上）一名
一看護婦見習　二名
右至急募集致シマス
磐城病院
平町田町通り
電話一一四

初夏の仕度を
青葉若葉のシーズンに相應しい本年流行の仕度は是非三井の新館陳列品を御覽の上におきめ下さい………
□人絹應用織物各種
□嶄新柄本セル各種
□新型美術洋傘各種
三井呉服店
平町三丁目
電話三十八番

平町紺屋町
吉田眼科醫院

公衆衛生に就て
傳染病流行の季節となりました、殊に各自御家庭の便所の不衛生は最も危險であります、警視廳防疫課奬勵に係る便所衛生器を御利用下さい、器具は無料で貸付し實費二十錢で申込次第即時取附いたします。
平町田町七十三番地
平鈴木組公衆衛生舍
電話五十八番

運動のシーズン
御忘無　旅行に遠足に示時正確な時計を
新綠の晩春に
蓄音器とレコード
之有て一家益々團欒
平町四丁目
會田時計店
電話三六三